

人間は他の星に住むことができるのか (p. 14 ~ 21)

◆ 語句 ◆

意味

堆積物…土砂が、風雨などで運ばれて、ある場所に積もったもの。

天体…宇宙空間にある物体。惑星・恒星・星雲など。

汚染…空気や水、食品などが、薬品やガス、放射線などの有害な

もので汚れること。

到達…物事が進んで、あるところまで達すること。

確保…大事なものをしっかりとつかんでおくこと。

探査…まだ知られていない場所や土地の様子を、詳しく調べること。

秘める…外からは見えないものを、内側にもっている。

短文

欠かせない

例 健康のために朝食は欠かせない。

多少なりとも

例 多少なりとも服装には気を使うべきだ。

類義語

探索 II 例 探究、調査

枯渇 II 例 使い果たす、底をつく

◆ 読解 ◆

ステップ1

1

- ① 距離
- ② 環境
- ③ 水
- ④ 大気
- ⑤ 重力

- ② ほとんどない

ステップ2

【序論】

1 ウ

2 もしもそう しょうか。

【本論】

1 地球からの距離、生きていける環境 ※順不同可。

2 人間の体をつくるもの

3 熱を逃さない毛布

4 例 月は重力が地球の六分の一程度しかないから。

5 エ

6 火星の一日の長さが地球の一日に近いこと

7 ① 太陽から遠い

② マイナス

③ 例 氷になって

8 イ

【結論】

◆ 例 生命が育まれる環境が揃った地球を大切にすることが重要だ

ということ。

ステップ3

1 筆者の判断

例 火星の地下にある水を溶かすことができれば、移り住める

可能性がある。

2

① 例 地球のすぐ外側を回っており、地球との距離が近い。

② 例 とても薄いのが、大気がある。

③ 例 地球の約四割である。

④ 例 地下に氷として眠っている。

⑤ 例 一日の長さが地球に近い。

(1) 大段落① 1 (段落) 3 (段落)

大段落② 4 (段落) 16 (段落)

大段落③ 17 (段落)

(2) 大段落① イ

大段落② 中段落① キ

中段落② カ

中段落③ オ

中段落④ ウ

大段落③ 中段落⑤ ア

(3) 例 筆者は、初めに問題を提起して、何について考えるかを

読み手に意識させている。そして、その問題について検

討し、最後に自分の考えを述べている。問題から結論ま

での流れがはっきりしているの、わかりやすいと思う。

段落分けの習慣をつけよう



「段落の大小」は、説明的文章を読むときには、常に意識しておこう。次のような手順を覚えておくといいよ。

① 形式段落に番号をつけながら文章を読む。

② 「問題提起」がどこにあるかを探す。

↓読み方を学ぼう1年①「説明文の基本構造」(巻末折り込み)を思い出そう。

問題提起をしている部分が大段落の一つめ「序論」だよ。

③ 「まず」「次に」「一つめは」「二つめ」は…などのことばに注意する。

↓これらの順序をあらわすことばから、中段落の区切れめがつかめるよ。

④ 「問題提起」に対応する「答え」を探す。

↓「答え」の部分が「結論」になるよ。